

若松公民館だより

千葉市若葉区若松町2117番地の2 電話 043-231-7991
本紙は若松中、小倉小、若松小、若松台小に配布しています。



若松公民館
ホームページ

ついちょっと前に新元号「令和」になったと思っていたら、もう8年という年を迎えています。関東では天候にも恵まれて、穏やかな年明けでした。ところが、「風邪気味だなあ」と思っていたら熱が38度近くまで出てしまい、近所の医院で検査を受けた結果はインフルエンザA型。のどの痛みと痰がからんで咳き込む日々を乗り越えてやっと落ち着いてきたところです。それにしても同居の家族に感染しなかったことは私以外が予防接種を受けていたからなのでしょうか。インフルエンザの薬は結構高く、こんなに苦しくて薬代もかかるならば、予防接種を受けたほうがよっぽどいいと反省している次第です。

さて、今年度も様々な年代の方に公民館を利用していただけるような講座を準備し、多くの方の申し込みがありました。「おとなも子どもとスクラッチ」、「里親子・縁組養育支援団体ココポルタによるアートワークショップ」、「オリジナルのスタンプで巾着袋を作ろう」、「袋でモミモミかんたんそばとそば粉のスイーツ」、

そして恒例の「坂月川親子生き物教室」など。これらの講座の狙いは、親子で同じ時間や経験を共有することでコミュニケーションを深めることですが、普段公民館を利用する機会の少ないお父さん世代の参加もあり、意図しない効果を大変嬉しく思っています。

また、新たなメンバーの加入を募る「サークル体験会」や「絵本の会による大人のためのお話会」など公民館を利用する団体による講座や、地域の人材を講師に迎えた「イラスト教室」、「メディカルハーブの基礎講座」も好評でした。新年度は更に多くの方が参加できるような工夫を図りつつ「**地域の知の拠点**」となるべく計画していきたいと思っています。

何かやってみたいとかスキルアップをお考えの方は、ぜひ公民館においでください。既存のサークルをご紹介することもできますし、ご自分で仲間と新たなサークルを立ち上げることも可能です。ぜひそのやる気のお手伝いをさせていただきたいと思います。また、若松公民館には図書室が併設されていて、毎年新たな蔵書を購入しています。市の図書館や他の公民館図書室に収蔵されている本を若松公民館で借りることもできます。地域に根差した社会教育施設ですので、お気軽にご利用いただきたいと思います。



若松公民館長 伊藤 直樹

若松公民館クラブ等連絡協議会主催

「第42回文化祭」開催！

10月4日（土）、川口新会長（若松空手クラブ）の挨拶で文化祭が開幕しました。文化祭は「日頃の学習の成果を地域に還元する」ことを目的に、若松公民館を利用するサークルの有志からなる「若松公民館クラブ等連絡協議会」が主催するもので、公民館は後援という形でサポートしていま



す。今年は、若松中学校の吹奏楽部の演奏と、「千葉市心身障がい者ワークホームたけのこ」によるハンドベルの演奏が開会式に彩りを加え、10団体（坂月川愛好会・泉墨会・遊の会・パッチワークキルト・書楽会・ラタンの会・ローゼルの会・こどもの Kai uli uli らぼ・すずらん保育園・あんしんケアセンター都賀）が出演し、6団体（らくらくヨーガ・体操サークル・若松混声合唱・若松太極拳・若松一翠会・水曜囲碁会）が実技発表をしました。昨年は学校行事の都合で参加できなかった若松中吹奏楽部をはじめ、日常的に公民館を利用しない団体との調整は、役員の皆さんにとってご苦労が多かったと想像します。文化祭では、同級生や元 PTA 役員など、数十年ぶりの再会を喜ぶ場面を目にします。地域の交流の場を提供して下さったことに深く感謝申し上げます。

文化祭の開催に尽力された役員の皆様

若松空手クラブ・純子さん／若松混声合唱団・千秋さん／
パッチワークキルトサークル・康子さん／書楽会・広信さん

4～11月の公民館講座報告

「いつまでも住み慣れた土地で暮らしたい」という想いは年齢を問わず多くの方が抱くものでしょう。令和7年度は、「フレイル予防教室」

(4～7月、全4回) からスタート。

70～90代の9人がシニアの栄養学や運動、口腔ケア、社会参加について学びました。／6月26日、「絵本の会による大人のための

お話し会」を開催、当館では4回目となる公演です。一人では持ちきれない大型本の披露など、リピーターも楽しめる工夫がありました。

夏休みの宿題と思い出は 若松公民館にお任せ！

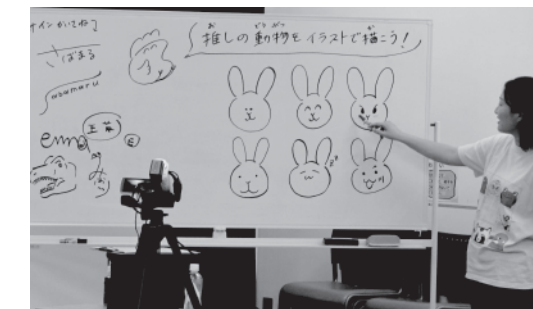
若松公民館では、他の公

民館に比べ親子を対象とした講座を充実させています。アンケートには「家では忙しくて、意外と親子で作業することがない」とか「子どもの知らない一面を見た」などの感想が寄せられ、身近な公民館が親子の思い出作りの場となつて



2回目となる「里親子・緑組養育支援団体 COCOPORTA によるアートワークショップ」(8月10日)には10組の親子が参加。工作を通して自分の「うち」を考えたり、お友達の話に耳を傾けたりしました。

いることがうかがえます。「オリジナルのスタンプを作って巾着袋を作ろう」(7月26日／馬場恭子)、「はじめよう！おな



「子どもイラスト教室～推しの動物を描こう」(7月21日・8月4日)には定員16人に対し60人の応募がありました。子どもたちのリクエストに応えるため、講師を長く探していましたが、今回ご縁が実り、イラストレーターのさばまるさんに指導いただくことができました。さばまるさんにとっても、子ども教室は初めてのことで、大変なご苦労だったと思います。講座のレポートや作品は、現在廊下に展示中です。

の使い方に苦戦しながら、インク

を調査して好みの色を作り出し、オリジナルペンを完成させました。

★★★★★★★★★★★★★★

「坂月川親子生き物教室」(2～9月／坂月川愛好会)にも、定員を満たすたくさんの親子が参加してくれました。／サイエンスインストラクターのミライハッチさんによる「色ペンづくりでインクのふしぎにせまれ！」(8月5日)では、20人の小学生がスポイト

9月には**太極拳同好会**(火曜)と**水曜囲碁会**が、サークル体験会を行いました。新学期が始まるように、大人にとっても新しいことに挑戦したくなるこの時季、会員

も刺激を受けたようです。／「メデイ

カルハープの基礎知識」(1

月22日／洋香^{ひろか})には、

20～80代の男女40人が、本格的な冬を前に、未病ケアへの関心を高めながら、ブレンドティーやスパイス香るチャイなど、4種類のお茶を味わいました。



公民館の専門誌『月刊公民館』(2025年6月号)に寄稿しました。「利用者との雑談からはじまった取組」について書いています。また、この記事を書きかけに文部科学省から依頼を受け、全国の公民館職員に向けてオンライン(9月19日)で事例発表を行いました。

若松公民館に！

韓国視察回来訪

7月9日、千葉大学の長澤成次先生のエスコートで、韓国の忠清南道^{チュンチョンナムド}(朝鮮半島中西部より南に位置する地域)の社会教育関係者20人が来館しました。日本では戦後まもなく社会教育法が誕生しましたが、韓国に

おいては1980年代に法律が制定され、日本の公民館と似た地域の交流施設があるそうです。今回の訪問では親子生き物教室や文化祭の運営に



の活動をはじめ、館と市民との関わりについて、興味を示されました。交流を通して、韓国の教育事情を知る有意義な機会となりました。